

勉誠社

歴史学研究会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード:9f421a9964

(期限:~2025年12月28日)

謹啓

秋冷の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。

ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:9f421a9964 (期限:~2025年12月28日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・送料
6,000 円 (税込)未満の購入 → 送料 600 円
6,000 円 (税込)以上の購入 → 送料無料

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
歴史学研究会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト								
2024～2025年刊行分								
	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数	
■事典・総記■								
近刊	江戸時代の図説事典 訓蒙図彙	小林祥次郎 解題	2025/10	30019-9	11000	8,800		
新刊	書物学 第30巻 書物から渋沢敬三を読む	神奈川大学日本常民文化研究所 編	2025/09	30730-3	2200	1,800		
新刊	書物学 第29巻 蔦屋重三郎と日本の出版文化 蔦重手引草	編集部 編	2025/08	30729-7	2200	1,800		
	書物学 第28巻 相国寺一寺宝が伝える歴史と信仰	相国寺承天閣美術館 編	2025/08	30728-0	2200	1,800		
	書物学 第27巻 近代製本の100年―明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2200	1,800		
	書物学 第26巻 古筆見の仕事―真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2200	1,800		
	書物学 第25巻 古典籍の文献学―鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2200	1,800		
	妖怪ブックガイド600	氷厘亭氷泉・式水下流 著	2024/07	30017-5	3080	2,500		
	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V.（おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ）・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22000	17,600		
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3080	2,500		
■歴史・文化財・美術史・思想史■								
近刊	高山寺本 明患上人夢記訳注	奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖 編	2025/10	31022-8	8,800	7,000		
近刊	新装版 書籍流通史料論 序説	鈴木俊幸 著	2025/10	32077-7	8,800	7,000		
近刊	宋代中国都市の形態と構造 新装版	伊原弘 著	2025/10	32079-1	4,950	4,000		
近刊	新装版 近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2025/09	32075-3	8,800	7,000		
新刊	中世地下文書論の方法と実践	春田直紀 編	2025/10	32076-0	9,900	7,900		
	會澤正志齋と水戸学の国体論	藤野博 著	2025/09	32073-9	3,300	2,600		
	醍醐寺の法流と史料	佐藤亜莉華 著	2025/07	31023-5	8,800	7,000		
	古代木簡の世界―地方木簡がひらく古代史	森公章 著	2025/07	32066-1	3,080	2,500		
	壮（チワン）族の歴史と文化	田畑博子 編	2025/07	33007-3	6,600	5,300		
	外から見た江戸時代の書籍文化―写本・版本・在外書籍	ピーター・コーニツキー 著	2025/07	32067-8	9,900	7,900		
	朝鮮の国家形成と東アジア	武田幸男 著	2025/07	32070-8	13,200	10,600		
	和様と唐様の建築史学史	野村俊一 編著	2025/07	35004-0	8,800	7,000		
	徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は語る―将軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	黒田日出男 著	2025/07	32068-5	4,180	3,300		
	古文書研究 第99号	日本古文書学会 編	2024/06	32409-6	4,180	3,300		
	社寺建築を知るための用語集―日本の歴史的建築を考える	濱島正士 著／文化財建造物保存技術協会 編集協力	2024/06	35003-3	4,180	3,300		
	宋代士大夫官僚の基層社会と構造	伊原弘 著	2025/05	32049-4	13,200	10,600		
	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,600		
	中国の女性演劇―越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600		
	新装版 武蔵武士を歩く―重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡	北条氏研究会 編	2025/03	32062-3	2,970	2,400		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2025/03	32055-5	4,180	3,300		
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,100		
	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2025/03	32063-0	11,000	8,800		
	道教文化と日本―陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,300		
	江戸庶民の読書と学び 増補改訂版	長友千代治 著	2025/02	32065-4	5,280	4,200		
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2025/01	32408-9	4,180	3,300		
	地方史誌から世界を読む―地方史誌から世界を読む	小二田章 編	2025/01	32064-7	8,800	7,000		
	帝鑑図と帝鑑図説―日本における勸戒画の受容	小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 編	2024/11	37017-8	16,500	13,200		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2024/12	32055-5	4,180	3,300		
	近世日本邪正論―江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏	大橋幸泰 著	2024/11	32058-6	11,000	8,800		
	看聞日記とその時代―好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	蘭部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,700		
	荘園制再編と中世日本	小川弘和 著	2024/10	32057-9	8,800	7,000		
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400		
	織田信長文書の世界―永青文庫 珠玉の六〇通	公益財団法人永青文庫・熊本大学 永青文庫研究センター 編	2024/09	32054-8	3,080	2,500		
	増補改訂版 東インド会社とアジアの海賊	東洋文庫・斯波義信・平野健一郎・羽田正 監修／	2024/09	32056-2	3,520	2,800		
	醍醐寺文化財研究所研究紀要 第24号	醍醐寺文化財研究所 編	2024/09	31302-1	2,750	2,200		
	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/09	32050-0	8,800	7,000		
	日本中世史論集	森茂暁 著	2024/09	32053-1	13200	10,600		
	料理の日本史	五味文彦 著	2024/09	32045-6	2640	2,100		
	ハナシ語りの民俗誌	川島秀一 著	2024/08	33006-6	3520	2,800		
	開かれていた鎖国―入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8800	7,000		
	新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	15,000		
	教育勅語―少年昭和天皇への進講録	杉浦重剛 著／所功 解説	2024/07	32051-7	1320	1,100		
	広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・幕張本郷猛・御田鉄・毛利恵太 著	2024/07	32040-1	3,520	2,800		
	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,300		
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700		

	近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200	
	増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表／ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 図像学入門―疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2640	2,100	
	古文書修復講座―歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／ 関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,300	
	三井大坂両替店の顧客信用情報―享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす ―東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15400	12,300	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7700	6,200	
	器と信仰―東アジアの舍利荘嚴をめぐる美術史・考古学からのアプ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16500	13,200	
	彰義隊士の手紙―続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22000	17,600	
	日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！【重版出来！】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識 ―十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開―東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
■ 古典文学・文学史 ■							
近刊	杜甫詩論考	後藤秋正 著	2025/10	39054-1	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語の話し声と表現世界	陣野英則 著	2025/10	39055-8	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語論 女房・書かれた言葉・引用	陣野英則 著	2025/10	39056-5	7,700	6,200	
新刊	近松・西鶴・芭蕉と出版文化	長友千代治 著	2025/08	32072-2	8,800	7,000	
品切	極上の仮名 王朝貴族の教養と美意識	五島美術館 編	2025/06	37020-8	2,750	2,200	
	幽憶 新フランス詩華集―ルネサンスから現代まで	竹本忠雄 著	2025/07	39053-4	6,600	5,300	
	日本中世の宗教世界	阿部泰郎 監修／佐藤愛弓・牧野敦司 編	2025/05	31021-1	9,350	7,500	
	中国の名作をどう読むか―真の主題を見極める	下定雅弘 著	2025/05	39048-0	6,600	5,300	
	杜甫研究年報 第八号	日本杜甫学会 編	2025/04	39448-8	2,200	1,800	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,900	
	和漢韻文文学の諸相	村上哲見 著／浅見洋二・松尾肇子 編	2025/03	39049-7	13,200	10,600	
	本歌取り表現論考	小山順子 著	2025/03	39050-3	12,100	9,700	
	水門 第三十二号	水門の会 編	2025/03	32463-8	3,850	3,100	
	孝謙天皇・称徳天皇御伝	米田達郎・米田雄介 編著	2025/01	32061-6	7,150	5,700	
	日本人の読書 新装版―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2025/01	39047-3	11,000	8,800	
	新装版 数と易の中国思想史―術数学とは何か	川原秀城 著	2024/12	81045-2	7,700	6,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第一冊（オンデマンド版） 桐壺／帚木 ／空蝉／夕顔／若紫	中野幸一 訳	2024/12	89571-8	2,750	2,200	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/11	31019-8	8,800	7,000	
	清少納言伝―中宮定子讃仰と鎮魂の生涯	上原作和 著	2024/11	39046-6	5,940	4,800	
	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?―真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,300	
	日本人にとって教養とはなにか―〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,100	
	日本古典文学と中国の古伝承―物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,600	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
	ラテンアメリカ文学の出版文化史 ―作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8800	7,000	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2200	1,800	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3850	3,100	
	川端康成の曖昧な声―日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300	
	本 かたちと文化―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	本 かたちと文化（電子版）―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3080	2,500	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8800	7,000	
■ 日本語学・言語学 ■							
	日本人は漢文をどう読んだか―直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38006-1	3520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16500	13,200	
	楷書の秘密―「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
近刊	309 外圧の日本古代文学史	遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編	2025/10	32555-0	3,300	2,600	
新刊	308 鏡としての日本文学―交響する中日古典	張龍妹 編	2025/10	32554-3	3,520	2,800	
新刊	307 空間と環境の古代東アジア世界史―GISと歴史学・考古学の協奏	中村慎一・渡部展也・小林正史・菊澤律子・大川裕子・村松弘一 編著	2025/09	32553-6	3,850	3,100	
新刊	306 建築とオリジナル 創造・継承・解釈	赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀 編	2025/08	32552-9	4,180	3,300	
	305 近現代日本を生きるテキスト遺産―モノ×営為×世界	Edoardo Gerlini・河野貴美子 編	2025/07	32551-2	3,300	2,600	
	304 北欧ロマンとナショナリズム―内村鑑三・開拓・民族主義	中丸禎子・田中琢三 編著	2025/07	32547-5	4,180	3,300	
	303 瓦から探る中世寺院	中世瓦研究会 編	2025/05	32549-9	3,300	2,600	

	302	アク・ベシム遺跡を掘る―よみがえるシルクロードの交易都市	山内和也・齊藤茂雄 編	2025/05	32548-2	3,520	2,800	
	301	描かれた法華経―本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,600	
	300	性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,500	
	299	近代日本の中国学―その光と影	朱琳・渡辺健哉 編著	2024/12	32545-1	3,850	3,100	
	298	無住道暁の拓く鎌倉時代―中世兼学僧の思想と空間	土屋有里子 編	2024/10	32544-4	3,080	2,500	
	297	廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600	
	296	天文文化学の視点―星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,100	
	295	蘇州版画―東アジア印刷芸術の革新と東西交流	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,800	
	294	秀吉の天下統一 ―奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,800	
	293	彷徨する宗教性と国民諸文化 ―近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
■図書館学・アーカイブ■								
近刊		学校図書館サービス論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 金沢みどり・望月道浩 編著	2025/10	30403-6	2,970	2,400	
新刊		大宅壮一文庫解体新書Ⅱ 雑誌図書館を活用した研究	阪本博志 編	2025/09	30021-2	3,300	2,600	
		調べ物に役立つ 図書館のデータベース 2025年版	小曾川真貴 著	2025/07	30016-8	2,200	1,800	
		デジタルアーカイブ入門―つかう・つくる・支える	柳与志夫・渡邊英徳 責任編集	2025/06	30015-1	4,620	3,700	
		「メタデータ」のパーспекティブ	池内有為・木村麻衣子 責任編集	2025/06	30306-0	4,950	4,000	
		図書館の日本史 増補改訂版（ライブラリーぶっくす）	新藤透 著	2025/06	30018-2	4,180	3,300	
		学校図書館概論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 雪嶋宏一・須永和之 編著	2025/05	30402-9	2,750	2,200	
		デジタルデータの長期保存・活用―その理論と実践	嘉村哲郎 責任編集	2025/03	30305-3	4,620	3,700	
		デジタル時代のコレクション論（デジタルアーカイブ・ベーシック	中村寛・逢坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,100	
		図書館員をめざす人へ 増補改訂版	後藤敏行 著	2024/10	30014-4	2,640	2,100	
歴史関連書籍（2023年）								
		国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
		東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田歓 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
		重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
		地方史誌から世界史へ―比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
		江戸時代の貸本屋―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
		モノと権威の東アジア交流史―鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
		黄泉の国との契約書―東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
		古代日本の儀礼と音楽・芸能―場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
		明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
		鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
		訂正新版 図説 書誌学―古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
		新羅政治社会史研究	武田幸男 著	2022/12	32024-1	13,200	10,600	
		むら人たちの生活モード―中世日本民衆生活史入門	蔵持重裕 著	2022/10	32018-0	4,180	3,300	
		公文書管理法時代の自治体と文書管理	宮間純一 編	2022/10	30008-3	6,600	5,300	
		上杉本洛中洛外図屏風の研究―桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020-3	9,900	7,900	
		近世期百姓の土地所持意識と村落共同体	菅原一 著	2022/08	32019-7	8,800	7,000	
		伝達と変容の日本建築史―伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001-9	3,850	3,100	
		史学科の比較史―歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017-3	7,700	6,200	
		中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	32016-6	13,200	10,600	
		北条義時の生涯―鎌倉幕府の草創から確立へ	菊池紳一 監修／北条氏研究会 編	2022/04	32014-2	3,080	2,500	
		中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	31006-8	4,180	3,300	
		宋版一切経（福州版）調査提要―本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010-5	7,150	5,700	
		書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり―近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800	
		書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ ―香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
		書物学 第22巻 禅寺の学問―相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
		書物学 第20巻 追憶のサムライ―中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720-4	1,980	1,600	
		アジア遊学291 五代十国―乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
		アジア遊学289 海外の日本中世史研究―「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
		アジア遊学287 書物の時代の宗教―日本近世における神と仏の変遷	岸本寛・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
		アジア遊学285 渾沌と革新の明治文化 ―文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
		アジア遊学284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
		アジア遊学283 東アジアの後宮	伴瀨明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
		アジア遊学282 列島の中世地下文書―諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
		アジア遊学281 神道の近代―アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
		アジア遊学280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
		アジア遊学279 上海フランス租界への招待―日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
		アジア遊学278 呪術と学術の東アジア―陰陽道研究の継承と展望	陰陽道史研究の会 編	2022/12	32524-6	3,300	2,600	
		アジア遊学276 村と民衆の戦国時代史―藤木久志の歴史学	稲葉継陽・清水克行 編	2022/10	32522-2	3,300	2,600	
		アジア遊学274 呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家	瀧朝子 編	2022/10	32521-5	3,520	2,800	
		アジア遊学273 日本の中世貨幣と東アジア	中島圭一 編	2022/09	32519-2	3,520	2,800	
		アジア遊学272 対馬の渡来版経―護り伝える東アジアの至宝	横内裕人 編	2022/08	32518-5	3,520	2,800	
		アジア遊学270 日本中世の課税制度―段銭の成立と展開	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	32516-1	3,080	2,500	

森 公章 [著]

古代木簡の世界

地方木簡がひらく古代史

こだいもっかんのせかい

木簡の出土遺跡は列島の津々浦々に及び、既存の文献史料では説明が難しい地域の様相を探究する手がかりとなる。

地方官衙遺跡出土木簡（地方木簡）を仔細に読み解き、八・九世紀を中心に、国郡制支配の基層となる郡・郡司の動向や「郡的世界」と称すべき在地社会の状況、その上位にある国府や国分寺、国家的な生産施設のあり方など、律令制下の地域の姿を探る。また「郡的世界」から国衙の支配へと展開する十・十一世紀の様相も明らかにする。

木簡の基礎知識や地方木簡を用いた古代史研究の方法論をわかりやすく解説し、具体的な木簡の釈読と文献史料から地方支配の様相の展開を立体的に描く、画期的入門書。

著者プロフィール

森 公章（もり・きみゆき）東洋大学文学部教授。

専門は日本古代史、特に地方支配の歴史の変遷、東アジアの国際関係、木簡学などを中心に研究している。主な著書に『地方木簡と郡家の機構』（同成社、二〇〇九年）、『地方豪族の世界——古代日本をつくった三〇人』（筑摩書房、二〇一三年）、『平安時代の国衙機構と地方政治』（吉川弘文館、二〇二四年）、『渡海僧がみた宋代中国——参天台五臺山記を読む』（八木書店、二〇二五年）などがある。

目次

はじめに 木簡とは何か／本書の構成
木簡表示の凡例
プロローグ——地方官衙遺跡出土木簡の概要——
木簡の出土状況／出土遺跡と点数の概要／木簡の年代／世界の木簡事情／発掘と整理・保存

一 七世紀史と木簡

1 評の成立と支配構造◎評制の「発見」と課題／評制の成立過程と官制／評と五十戸／評と郡の相違／七世紀木簡の出土例／評務の遂行◎2 筑前国嶋郡戸籍の世界◎現存する最古の戸籍／元岡・桑原遺跡群出土の木簡／郡司の戸の様子／大宝二年戸籍をめぐる問題／国分松本遺跡出土木簡から考える

二 「郡的世界」の実像

1 郡務と木簡——兵庫県豊岡市出石町袴狭遺跡群出土の木簡——◎遺跡の概要と木簡の留意点／狭義の文書木簡／記録簡と郡務の諸相／その他の郡務◎2 郡家出先機関の諸相(1)——陸奥国磐城郡の場合——◎里(郷)の位置づけ／郡家出先機関とは／陸奥国磐城郡の場合／大領と農業経営／文書行政の執行／大猿田遺跡出土の木簡◎3 郡家出先機関の諸相(2)——加賀国加賀郡の場合——◎加賀郡の様相／畝田・寺中遺跡出土の木簡／田領横江臣と畝田村／加茂遺跡と傍示札木簡の出土／田領丈部氏と深見村◎4 地域支配と木簡◎青木遺跡の概要／I区出土の木簡／IV区出土の木簡／春時祭田の世界

三 国レベルの機関と木簡

1 但馬国府跡関連遺跡出土の木簡◎但馬国府跡関連の遺跡／題籤軸と紙の文書／郡務と国務の連関◎2 観音寺遺跡と国府木簡の様相◎観音寺遺跡出土の木簡／国務関係の文書／阿波国の支配構造と国務の遂行／荷札木簡の到来・製作と国府◎3 国分寺と木簡◎国分寺の建立／但馬国分寺跡出土の木簡／安芸国分寺跡出土の木簡◎4 生産遺跡と木簡◎長登銅山跡と木簡の出土／文書木簡の検討／荷札木簡と物資の到来／銅付札の諸相／大仏造立の様相

四 国衙の支配への展開

1 農業経営と木簡◎畿内有力者の多角経営／労働力編成の諸相／出挙と農事◎2 「郡的世界」から国衙の支配へ◎地方官衙遺跡と木簡の行方／青谷横木遺跡の概要／十・十一世紀の木簡／徴税と勸農／国衙の出納所・収納所と木簡／中世の国衙機構への展望

エピソード

——木簡の研究手法と鍛錬——

研究ツールの広がり／
「目から赤外線が出る」とは

参考文献

あとがき

索引(本書で触れた木簡出土の遺跡／
地方木簡を理解するための関連事)

定価 3,080 円
(本体 2,800 円)

A5判並製カバー装
224頁+カラー口絵4頁
ISBN 978-4-585-32066-1 C1021
2025年8月刊行

書 名

古代木簡の世界

地方木簡がひらく古代史

森 公章(著)

部 数

定価3,080円(本体価格2,800円)

A5判・並製カバー装・224頁+カラー口絵4頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-32066-1 C1021

部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉 誠 社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

朝鮮の国家形成と東アジア

中原高句麗碑

幅広い史料の実証的分析により

古代朝鮮の社会を浮き彫りにしてきた朝鮮史・東アジア交渉史研究の泰斗、武田幸男。三韓から三国にいたる国家形成期の重要テーマを論じた珠玉の論考・講演録を収録。古代東アジア史を考えるうえで日本史研究者も必携・必読の書。

序言……『朝鮮の国家形成と東アジア』編集協力者一同

第一編 『三国志』東夷伝と東方諸種族

第一章 奴隸制と封建制

第二章 魏志東夷伝にみえる下戸問題

第三章 三韓社会における辰王と臣智

第二編 広開土王碑と東アジア

第一章 四〇五世紀の朝鮮諸国

第二章 好太王碑の難しさ・

第三章 広開土王碑の百済と倭

第四章 好太王の時代——四・五世紀の高句麗と東アジア

第五章 碑文からみた四・五世紀の高句麗

第六章 広開土王碑おぼえがき

第七章 広開土王碑の真意をたずねて

第八章 集安・高句麗二碑の研究に寄せて

第三編 朝鮮三国の国家形成

第一章 朝鮮の国家形成と三国

第二章 五〇六世紀東アジア史の一視点

——高句麗「中原碑」から新羅「赤城碑」へ

第三章 六世紀における朝鮮三国の国家体制

第四章 朝鮮三国の国家形成

第五章 朝鮮諸国の古代国家形成

第四編 古代東アジア史の諸相

第一章 「始祖廟」記事と高句麗王系

第二章 徳興里壁画古墳被葬者の出自と経歴

第三章 「高麗記」と高句麗情勢

第四章 新羅の骨品体制社会

第五章 平西將軍・倭隋の解釈——五世紀の倭国政権にふれて

初出一覧・索引

定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・608頁
2025年7月刊行
ISBN978-4-585-32070-8 C3022

武田幸男〈著〉

（たけだ・ゆきお）一九三四年生まれ。東京大学名誉教授。二〇二二年逝去。専門は朝鮮前近代史。著書に『学習院大学蔵 朝鮮戸籍大帳の基礎的研究』（学習院大学東洋文化研究所、一九八三年）、『高句麗史と東アジア』（岩波書店、一九八九年）、『高麗史日本伝』上・下（岩波書店、二〇〇五年）、『広開土王碑との対話』（白帝社、二〇〇七年）、『広開土王碑墨本の研究』（吉川弘文館、二〇〇九年）、『新羅中前期の史的研究』（勉誠出版、二〇二〇年）、『新羅政治社会史研究』（勉誠社、二〇二二年）など多数。

書名	冊数
朝鮮の国家形成と東アジア 武田幸男〈著〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

空間と環境の 古代東アジア世界史

定価3,850円・本体3,500円
[アジア遊学No.307]
A5判・並製・カバー装・320頁
2025年9月刊行
ISBN978-4-585-32553-6 C1320

〈編著〉

金沢大学理事・副学長

中村慎一

中部大学教授

渡部展也

金沢大学客員教授

小林正史

国立民族学博物館

総合研究大学院大学教授

菊澤律子

上智大学准教授

大川裕子

淑徳大学教授

村松弘一

はじめに GISと歴史研究

—— 古代東アジア世界の空間と環境を考えるために—— 渡部展也・村松弘一

第Ⅰ部 東アジアの歴史空間と環境

4・2 kaイベントと中国文明の形成—— 中村慎一

東アジアにおける家畜の東伝—— 大陸から列島へ—— 菊地大樹

ユーラシア大陸におけるアワ・キビの西方伝播—— 庄田慎矢

丹穴考—— 先秦時代の会稽における辰砂採掘の可能性—— 斎藤誠史・南武志・村松弘一

第Ⅱ部 農耕世界の変動—— なりわいとなる—— 稲作と米食

分布と立地景観からみる早期水利用施設とその変遷—— 渡部展也

華北の水稲作—— 文献史料から探る唐代以前の栽培適地—— 大川裕子

先史時代における黄河流域のイネ—— 久保田慎二

稲作文化圏の主食調理法の分布と変遷

炊き干し法と炊き上げ法の区別を中心として—— 小林正史

言語を切り口とした農耕誌研究の可能性とツール開発—— 菊澤律子

水利施設の呼称と稲作の広がり—— 現代中国語方言を例として—— 鈴木史己

人間と環境の関係を可視化する

人々は地表という空間の上で暮らしを営み、

そこに広がる自然環境や人文環境との関係やつながりの中で社会や技術を変化させてきた。

空間と環境に着目することで、どのような歴史が浮かび上がってくるのだろうか。

本書では、歴史学、考古学、言語学など異分野の研究者が、

気候変動と中国古代文明の形成との関係、長江流域から黄河流域の農耕社会の変動、

鉱物資源の流通、唐代交通路の復元など、東アジアの環境や社会の変化、人・モノの移動に焦点を当て、

GIS（地理情報システム）を応用しながら空間を具体化して分析・考察を行った事例を取り上げる。

GIS（地理情報システム）を応用しながら空間を具体化して分析・考察を行った事例を取り上げる。

中国大陸を中心として、南洋諸島から、日本列島、中央ユーラシアに至るまでの

空間認識と環境の利用方法について提示するとともに、古代東アジア世界史を再構成する。

第Ⅲ部 空間と環境—— 人・生き物・モノと都市遺跡の関係性

江南新石器文化からみた集落景観・領域に関する緒論—— 小柳美樹

二里頭遺跡の環境—— 小澤正人・徳留大輔

西周王朝の王都・周原とその都城圏—— 西江清高

春秋戦国時代の燕国の北方への拡大—— 石川岳彦

塩と鉱物資源をめぐる春秋戦国時代

—— GISを活用した黄土高原の交通路調査—— 村松弘一

唐代の長安と洛陽とを結ぶ道

—— 交通路と関連遺跡の調査をふまえて—— 河野保博

column

GISからわかる古代の交通路と環境

紀行文と地図から読み解く范成大—— 白山友里恵

円仁の巡礼ルート復元におけるGIS活用の試み—— 宮山朱理

青海と関中平原の交通—— 渡部展也・村松弘一

書名

空間と環境の古代東アジア世界史
GISと歴史学・考古学の協奏

中村慎一・渡部展也・小林正史・菊澤律子・大川裕子・村松弘一〈編著〉

定価3,850円・本体3,500円
[アジア遊学No.307]
A5判・並製・カバー装・320頁
2025年9月刊行
ISBN978-4-585-32553-6 C1320

冊数

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

外圧の 日本古代文学史

共立女子大学文学部教授
聖学院大学教授
四谷学院講師
遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編

日本文学史は、外国文化の圧力——外圧——という脅威と向き合う心の葛藤の歴史である。

古代日本の人々は、文字（漢字）や仏教・中国思想の外圧、

国家制度や白村江の戦いと壬申の乱といった政治的・軍事的な外圧、

文学作品や唐物と呼ばれる輸入品の外圧など様々なかたちで現れた

外圧としての中国文化に対して、どのように葛藤し、そこから何を創造していったのか。

『万葉集』や『源氏物語』などをはじめとする和歌や散文作品、漢詩文を、

奈良と平安の二つの時代に分けて取り上げ、

国際環境や国際感覚の異なる時代背景のもと、中国文化と格闘し、

換骨奪胎、あるいは克服、憧憬しながら、文学を創造した人々の心の様相を探る。



序言：遠藤耕太郎

総論 古代前期…外圧としての漢字の向き合い…遠藤耕太郎
総論 古代後期…「外圧」から「内なる規範」への展開…濱田寛

第Ⅰ部 古代前期（奈良時代まで）

『古事記』『酒楽の歌』について——宴のうたと場…岩田久美加

唐の外圧と額田王…遠藤耕太郎

柿本人麻呂と『外圧』…高松寿夫

山部赤人による呪性の回復…遠藤耕太郎

『万葉集』遣唐使関連歌考

漢語漢文世界でやまとうたをよむこと…岩田久美加

和銅—神亀年間の国際環境と大伴旅人

香椎浦と松浦川にみる風流心…井実充史

七〜九世紀東アジアの国際環境と日本漢詩…井実充史

第Ⅱ部 古代後期（平安時代）

『土佐日記』における漢詩の表記方法…中島輝實

『伊勢物語』はどう人の心をかたちづくるか
——外圧としての仏教を視座に…咲本英恵

『うつほ物語』の列挙表現——賦の視点から…宮谷聡美

『枕草子』と漢籍——中国文化の（外圧）と宮廷社会の（内圧）の均衡…中田幸司

『源氏物語』の音楽——紅葉賀巻にみえる「外来の音楽の内面化の方法」…岡田ひろみ

桐壺巻における長恨歌引用の意義——桐壺帝の寵愛とその典型化…吉見健夫

平安時代の漢詩文——転換期としての宇多朝とその前後…濱田寛

あとがき…吉見健夫

関連年表

定価 3,300円・本体3,000円
[アジア遊学No.309]
A5判・並製カバー装・256頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-32555-0 C1390

書 名	冊 数
外圧の日本古代文学史 遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫〈編〉 定価 3,300円・本体3,000円 [アジア遊学No.309] A5判・並製カバー装・256頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-32555-0 C1390	冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

岡田文弘〈著〉

一九八七年、岡山県生まれ。東京大学文学部言語文化学専攻卒業、同大学大学院人文社会科学研究科アジア文化研究専攻博士課程修了。博士（文学）。ハーバード大学ライオン・日本研究所客員研究員を経て、現在、身延山大学特任講師・日蓮宗現代宗教研究所特別研究員。研究分野は仏教説話、法華信仰・日蓮教学など。著書（分担執筆）に『事典 日本（の）の仏教』（養輪顕重編、吉川弘文館、二〇一四年）、『宗教の世界史』四（仏教の歴史）二（東アジア）（末木文美士編、山川出版社、二〇一八年）などがある。

法華験記の形成と思想

叡山僧・首楞嚴院沙門鎮源よつて編まれた平安期を代表する説話集『大日本国法華経験記』（『法華験記』）。

文学、歴史、仏教研究の各分野において注目すべき内容を多く含む同書は、平安期の仏教信仰を窺い知るための史料、『今昔物語集』をはじめとする様々な説話集の関連文献として重視・珍重されてきた。

『法華験記』はいかに形成され、その説話からいかなる思想が透けて見えるのか。

成立の時代背景や環境、恵心僧都源信についての記述、畜生をはじめとする異類に対する功德を説いた一連の説話群など多角的に検討し、形成の様相とその思想の特性を明らかにする。

はじめに

序章

●第一節…緒言●第二節…『法華験記』の概観●第三節…先行研究史●第四節…小結

第一章 『法華験記』成立の時代

●第一節…緒言●第二節…横川の講組織からの説話文献創出—序文引用の故事を端緒として
●第三節…理想的持経者像構築の試み—第六九話「基燈法師」の検討●第四節…小結

第二章 中国・朝鮮の典籍との関係

●第一節…緒言●第二節…義寂撰『法華経集験記』との関係●第三節…僧祥撰『法華伝記』との関係
●第四節…行者対決説話—第一七話「持法沙門持金法師」および第三三話「雲州法嚴蓮蔵二法師」●第五節…小結

第三章 慶滋保胤『日本往生極楽記』からの展開

●第一節…緒言●第二節…説話の創出—第二話「行基菩薩」注記
●第三節…蛇道に堕した僧の話—第七話「無空律師」および第三七話「六波羅密寺定読師康仙法師」の検討●第四節…小結

第四章 源信伝の検討—第八三話「楞嚴院源信僧都」を中心に

●第一節…緒言●第二節…源信像の構築—『楞嚴院廿五三昧結衆過去帳』との比較を通して
●第三節…源信と妙音菩薩●第四節…兜率・極楽相對の挿話●第五節…小結

第五章 『法華験記』の異類功德譚

●第一節…緒言●第二節…卷末五話の特性●第三節…異類功德譚の出現—第七八話「覚念法師」の検討
●第四節…『法華経』の済度—第一〇六話「伊賀国報恩善男」の検討●第五節…小結

第六章 『法華験記』と普賢信仰

●第一節…緒言●第二節…『法華験記』の普賢関連説話●第三節…普賢信仰関連の滅罪譚●第四節…行者捕縛譚の系譜●第五節…小結

第七章 後代への影響—宗性撰『弥勒如来感応抄』への書承

●第一節…緒言●第二節…『弥勒如来感応抄』の成立事情—笠置寺を中心として
●第三節…『弥勒如来感応抄』の『法華験記』受容●第四節…小結

終章

附篇 義寂『法華経集験記』（翻刻・訓読・現代語訳・注釈）
旧稿一覧／文献一覧／あとがき／索引

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・448頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-31026-6 C3015

書名	冊数
法華験記の形成と思想 岡田文弘〈著〉	冊
定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製カバー装・448頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-31026-6 C3015	
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

鏡としての

日本文学

交響する中日古典

アジア遊学 308

張龍妹 [編]

「国文学」を超えて――

日本文学を紐解くと、そこには中国文学の影響が少なからず散見される、それらを比較することは、中国古典の変容のあり方を発見することにつながり、さらに日本文学・文化の特徴を改めて見出すことになる。お互いの国の文学を研究することで、それぞれが響きあい、自国の文学を学ぶことのみでは見いだせなかった新たな魅力、意義を知ることにつながる。日本文学を研究する中国人研究者たち、そして長年中国で日本文学研究・教育に携わった日本人研究者たちによる古典文学の交響。日本文学を「中国」という他者としての視座から再考し、「国文学」の本質を問い直す。

編者プロフィール

張龍妹(ちようりゅうまい)……北京外国語大学北京日本学研究センター元教授。専門は『源氏物語』を中心とする平安仮名文学。主な著書に『源氏物語の救済』(風間書房、二〇〇〇年)、『日本文学 古典篇』(高等教育出版社、二〇〇八年)、『平安朝宮廷才女の散文文体文学書写』(光明日報出版社、二〇二一年)などがある。

目次

「序文」鏡としての日本文学――交響する中日古典 ●張龍妹

第1部 漢詩文と仮名文学

「徳」の文学と「あはれ」の文学 ●張龍妹

回文和歌と「釈教歌」の水脈

――「ながきよのとをのねぶりのみなめざめ」の謎を解く ●渡辺秀夫

「凌雲集序」再論――文体の視点から ●王格格

『扶桑集』部類項目再検討 ●廖榮発

菅原定義勸学会詩序考 ●李筱颯

『うつほ物語』俊蔭流離譚における「風」――神仙譚の視点から ●趙小青

『源氏物語』大君物語における女性主体の叙述

――「男せざりし人」型の脱構築 ●馬如慧

日本史書における編年体の変容――『栄花物語』を考えるために ●彭湊

「コラム」平安文学における「身」の意識 ●高木和子

第2部 説話文学と軍記物語

仏伝文学と龍の形象――『釈氏源流』を起点に ●小峯和明

仏典の「僧と美女」の物語の中における伝播と変容 ●趙季玉

説話文学に見る孔子とその弟子たち ●尤芳舟

『今昔物語集』と唐代伝奇における女盗賊の比較 ●邱春泉

東アジアにおける「二十四孝」の資料整理と文字校正 ●趙俊槐

『大倭二十四孝』における継母への孝行の欠如 ●盧俊偉

『太平記』における中国謀士の武人化変容 ●文字博

歴史はいかに語られるか

――朝鮮軍記物における「美人殺し」逸話をめぐって ●覃思遠

「コラム」ミサキについて ●多田一臣

第3部 古典から近代へ

芥川龍之介「支那遊記」に登場する「石黒政吉」とは誰なのか

――南京督軍顧問多賀宗之宅に掛けた「田夫氏の画」の考察をかねて ●曲莉

古典をいかに再生すべきか――川端康成「古都」を読む ●岳遠坤

「国訳漢文大成」の白話小説日本語訳における「両文体」の応用 ●蔡春曉

「伝統演劇」としての越劇の生成――宝塚歌劇との比較を通して ●劉嘉塔

「コラム」張龍妹先生賛――回想「源氏物語の救済」が世に出た頃 ●神野藤昭夫

編集後記 ●李筱颯

日本文学との出会い――あとがきに代えて ●張龍妹

龍の妹に贈る――あとがきのあとがき ●小峯和明

定価 二五二〇円(税込)

【本体三〇〇円】

A5判・並製カバー装・二五二頁

ISBN978-4-585-3254-3 C1390

二〇二五年十月刊行

書名

鏡としての日本文学

交響する日中古典 【アジア遊学 308】

張龍妹 [編]

部数

定価 3,520円(税込)・本体 3,200円

A5判並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-3254-3 C1390
2025年10月刊行

部

ご送付先ご住所・氏名(通信欄)

佐藤亜莉華

〔著〕

（さとう・ありか）一九九三年生まれ。日本女子大学文学部史学科助教。専門は日本仏教史・寺院史料論。主な論文に「南北朝から室町前期における理性院流と太元帥法別当職の相承——理性院宗助と大覚寺證菩提院光寛の対立」（永村真編『中世寺院の仏法と社会』勉誠出版、二〇二一年）、「金剛王院流の醍醐寺座主輩出と世俗権力」（『ヒストリア』291号、大阪歴史学会、二〇二二年四月）などがある。

醍醐寺の法流と史料

真言宗の中核寺院として、創建以来、長きにわたり展開を続けてきた醍醐寺。

醍醐寺はいかにして組織と文物を守り伝えてきたのか——

密教における秘法の相承により形成される「法流」に着目。

それを縦軸に、法流の存続に関わる諸問題に対応すべく寺院社会内部、

さらには世俗権力との間で行われた折衝の諸相、

また、聖教をはじめとする寺院史料群の生成・活用・相承について検討することで、

中世・近世を通じた醍醐寺の変容を明らかにする意欲作。

序章

第Ⅰ部 中世における醍醐三流

第一章 三寶院門跡満済と報恩院隆源——法流相承をめぐって

第二章 南北朝から室町前期における理性院流内の対立

第三章 金剛王院流の醍醐寺座主輩出と世俗権力

第四章 醍醐寺僧と根来寺僧の交流とその変容

第Ⅱ部 三寶院門跡の変容と実態

第一章 中世・近世醍醐寺にみる「門跡」と諸階層

第二章 醍醐寺の寺内統制と「出世」

第三章 近世三寶院門跡と「法流預」

第Ⅲ部 寺院史料からみる法流相承

第一章 醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成——報恩院隆源を通して

第二章 三寶院義演撰『醍醐寺新要録』の成立にみる寺院史料群の活用

終章

あとがき／初出一覧／索引



定価8,800円・本体8,000円
A5判・上製カバー装・376頁
2025年7月刊行
ISBN978-4-585-31023-5 C3015

書名		冊数
醍醐寺の法流と史料 佐藤亜莉華〔著〕		冊
定価8,800円・本体8,000円 A5判・上製カバー装・376頁 2025年7月刊行 ISBN978-4-585-31023-5 C3015		
ご送付先ご住所（通信欄）		

株式会社勉誠社 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

相国寺

Shokoku-ji

寺宝が伝える
歴史と
信仰

京都五山第二位の禅刹、相国寺。

足利義満開基によるこの禅寺は、

歴代足利將軍ゆかりの寺院、

また渡来僧を含む数々の禅僧が交流した

五山文学の発信地として、

中世日本において大きな存在感を持った。

しかし、たびたびの伽藍焼失などの憂き目に遭い、

衰退と再興を繰り返し、

近世初期には後水尾院による手厚い庇護のもと、

現在に伝わる姿を形成していった。

禅僧たち、そして足利將軍家、天皇家により、

守り、伝えられてきた寺宝は何を語るのか――

斯界をリードする十五人の執筆者により

本山相国寺そしてその塔頭の営みを明らかにする。

序文・相国寺の什物が語る歴史 本多潤子

第一部 相国寺と將軍家・天皇家

足利義満と相国寺 芳澤元

相国寺派塔頭と寺内秩序 足利將軍家との結びつきから 高島廉

天皇と相国寺 後小松院宸翰を中心に 本多潤子

第二部 祖師像から見えるもの

夢窓疎石の頂相と無等周位

妙智院本・慈照院本・相国寺本を中心に 高橋真作

坐禅する夢窓疎石と観音 川本慎昌

歴代頂相の伝来と絵師 相国寺と明兆 森道彦

定価 2,200円・本体 2,000円
B5判・並製カバー装・104頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-30728-0 C1000
【書物学28】



書物学
28

第三部 祈りの対象としての仏画

開基足利義満の肖像と追善仏事について

「足利義満像 厳中周璽賛」を中心に 立畠敦子

羅漢図像を用いる儀礼空間 陸信忠筆「十六羅漢図」 西谷功

二十八部衆と中尊 本多潤子

相国寺の名宝!? 世尊説相図 郷司泰仁

相国寺塔頭に伝わる音楽神 妙音弁財天像(大光明寺蔵) 猪瀬千尋

第四部 相国寺と経蔵

相国寺経蔵安置の大日如来像 鯨井清隆

宝塔再建と護持 本多潤子

相国寺経蔵の大蔵経 須田牧子

第五部 伽藍を荘厳するモノ

近世前期における三具足の製作と供給体制

相国寺蔵胡銅三具足の検討を中心に 山本堯

今出川通をとびこえた子犬たち

開山堂杉戸絵「芭蕉狗子図」 円山応挙筆 上嶋悟史

忘れられた唐絵 伝牧谿筆「柿栗図」(相国寺蔵)をめぐる 加藤祥平

美術館紹介・相国寺承天閣美術館 本多潤子

相国寺承天閣美術館(編)

書名

相国寺——寺宝が伝える歴史と信仰
相国寺承天閣美術館(編)

冊数

定価 2,200円・本体 2,000円
B5判・並製カバー装・104頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-30728-0 C1000
【書物学28】

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025



瓦

から探る 中世寺院

中世瓦研究会〈編〉

瓦の研究で何がわかるのか？

考古学における瓦研究の歴史は古く、日本への仏教伝来にもなつて

飛鳥時代に建立された寺院で使用された瓦の研究に始まり、

奈良時代の諸国分寺や官衙の造営に使われた

瓦などについての豊富な研究が蓄積されている。

いわゆる歴史考古学において、

瓦研究は土器の研究とならんで

主要な研究分野として発展してきた。

源頼朝が鎌倉時代初期に政権を築いた

鎌倉の地に建立した永福寺の瓦を中心に、

その形式・文様などから、生産・流通までを検証。

考古学、美術史、文献史学など

関連諸学からアプローチを集結し、

瓦から見える「モノ」と「ヒト」の関わりを解明する。

【序文】中世寺院の造営と信仰をめぐる諸研究・小林康幸
【総説】中世瓦を読み解く——永福寺式軒瓦を事例として——小林康幸

第1部 永福寺式軒瓦の成立と展開
院政期尾張における瓦生産——八事裏山窯を中心に——尾野善裕
相模の尾張産瓦について 高橋 香

伊豆・願成就院跡と周辺遺跡の中世瓦——北条氏本拠地の様相——池谷初恵
武蔵の永福寺式瓦——軒瓦と平・丸瓦などから——石川安司

常陸の永福寺式軒瓦とその周辺——比毛君男

第2部 武士の寺院造営と信仰

三浦氏関連中世寺院の考古学的考察・大澤伸啓

武士本拠の仏像造立——威信財としての仏像とその機能——渡邊浩貴

武士の経塚造営・水口由紀子

横須賀・満願寺の仏像と三浦一族——寺院創建と本尊の造立——大澤慶子

中世武蔵武士と墳墓・落合義明

【コラム】学芸員と特別展——神奈川県立歴史博物館 特別展「永福寺と鎌倉御家人」頼末記・渡邊浩貴

第3部 深化する中世瓦の研究

源姓足利氏の造寺活動と瓦・足立佳代

満願寺遺跡と薬王寺遺跡——三浦一族ゆかりの寺院と瓦——中三川昇

【コラム】永福寺——瓦の生産地はどこか——菊川泉

屋根瓦からみえる永福寺の姿・芦田淳一

【コラム】土器研究からみた中世瓦・押木弘己

中三川昇さんの逝去を悼む・小林康幸

あとがき・小林康幸

定価3,300円・本体3,000円
A5判・並製カバー装・272頁
2025年5月刊行
ISBN978-4-585-32549-9 C1321
【アジア遊学No.303】

書 名	冊 数
瓦から探る中世寺院 中世瓦研究会〈編〉	冊
定価3,300円・本体3,000円 A5判・並製カバー装・272頁 2025年5月刊行 ISBN978-4-585-32549-9 C1321 【アジア遊学No.303】	
ご送付先ご住所（通信欄）	

中世地下文書論の 方法と実践

研究概念の構築から射程の拡大、
そして文書実践論へ

中世の地域社会における文書利用の実態を、中央の権門からではなく、

荘園・公領の現地の視点から総体的に把握するために二〇一四年に提起された研究概念「地下文書」。

「地下文書」は日本中世史研究の諸領域の中でどのように位置づけることができるのか。

荘園制研究、村落史研究、都市・商業史研究、在地領主研究など

様々な分野にこの研究概念を適用することで見いだされる論点や課題を提示する。

さらに、文書実践の観点から論じた実証研究の成果に加え、

隣接分野から地下文書論を評価する論考も掲載。

中世地下文書論の成果と課題を体系的に論じ、

その方法論・研究実践の到達点と今後の展望を示す。



定価 9,900円・本体9,000円

A5判・上製カバー装・464頁

2025年10月刊行

ISBN978-4-585-32076-0 C3021

春田直紀

〔編〕

序論 中世地下文書論の方法序説 春田直紀
第一部 日本中世史研究と地下文書
荘園制研究と地下文書 小川弘和
村落史研究と地下文書 村上絢一
都市史・商業史研究と地下文書 大村拓生
中世一揆研究と中世地下文書 奥座勇一
在地と地下のあいだ 佐藤雄基

第二部 中世地下社会の文書実践

地下文書の分類と機能 似島雄一
中世売券にみる文書実践 村石正行
在地寺社文書にみる文書実践 遠江国「大福寺文書」を事例として 朝比奈新
帳簿にみる地下社会と地下文書 榎原雅治
地下文書にみる中世文書の「社会化」 人身売買文書を素材として 高橋一樹
地下文書の生成・変容と権力秩序 近世地方文書への道程 湯浅治久
第三部 隣接分野からみた地下文書論

近世における地下文書論 牧原成臣
伝承文学研究からみた地下文書論 間枝遼太郎
歴史民俗学からみた地下文書論 渡部圭一
西欧中世の「普通の文書」/「灰色の文書」論 自治体会計簿を中心に 向井伸哉

書名

中世地下文書論の方法と実践

春田直紀〔編〕

冊数

定価 9,900円・本体9,000円

A5判・上製カバー装・464頁

2025年10月刊行

ISBN978-4-585-32076-0 C3021

冊

ご氏名／ご送付先住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

日本中世の宗教世界



聖徳太子二歳像

現代の我々の想像を遙かに超えて、
中世の日本は、宗教的なものに満ちた世界であった。
それは、単に神仏への信仰という観念的なことでなく、
何らかへ聖なるものへの存在や働きを、
日常に身体感覚を通して直接に受けとめたり、
反対に人から何者かへ訴え、
働きかけるダイナミックな(冥と顕)の相互の交信が、
絶えず繰り広げられていた世界だったのである――。
各地に伝存する多種多様な寺院資料を紐解き、
また、文学・絵画・建造物・芸能といった
諸メディアとの連環をとらえ、
中世日本における豊饒な宗教的世界観を
立体的かつ通史的に描き出す必読の書。
学界を領導する十八名の研究者による
最先端の研究状況をまとめて一冊で知ることの出来る
中世日本の社会・思想・文化を考えるための
充実のレファレンスツール！

序論 本書の構成とみどころ……佐藤愛弓・牧野淳司

第Ⅰ部 中世宗教テクストの生成

一・思想——日本中世をどう見るか
思想史の中世……末本文美士

神祇の歴史から考える中世前期における神と仏の関係性……岡田莊司

二・法会——宗教の社会的・歴史的意義
歴史学から仏教儀礼を読み解く

法会・修法のかたちとその変遷を考える……上島章
法会の場——内論義の会場をめぐって……山岸常人

三・僧侶——時代・社会とどう向き合うか
中世日本の表現主体が創出する宗教世界

貞観と慈円の檀越宗教空間……阿部泰郎
目を閉じて坐禅をした明恵上人……高橋秀栄

東大寺資料からみる寺院資料生成論
宗性撰述聖教と交衆・通世……横内裕人

四・文庫——聖教の集積と伝来
秘匿と流伝の法流形成——鎌倉時代勸修寺流の展開について……佐藤愛弓

称名寺聖教の形成と鈔阿……高橋悠介
大須文庫の生成——真福寺創建期歴代の活動とその周辺……三好俊徳

第Ⅱ部 よみがえる中世の宗教世界

一・宗教空間の創出

大峯信仰史の創出——「大菩提山仏生土要事」をめぐって……川崎剛志
中世宗教空間を創りだす宣陽門院——その宗教的主体性を中心に……阿部美香

二・神と仏の姿

受肉するカミ——垂迹信仰と生身信仰の接合……伊藤聡
観音・媽祖・マリア——日中欧の交流と女神のメタモルフォーシス……松尾恒一

三・文芸への広がり
西行和歌と神仏習合儀礼——伊勢神宮詠「深く入りこ」をめぐって……船田淳一

六道釈と『平家物語』「祇園精舎」……牧野淳司
四・絵画への広がり

愛執の図像学——中世説話画に描かれた愛と発心……山本聡美
「真宗系」・「南都系」聖徳太子絵伝の再検討……村松加奈子

刊行にあたって……阿部泰郎
編集後記……佐藤愛弓・牧野淳司

定価 9,350円・本体8,500円
A5判・並製カバー装・584頁
2025年5月刊行
ISBN978-4-585-31021-1 C3014

阿部泰郎〈監修〉佐藤愛弓・牧野淳司〈編〉

龍谷大学文学部客員教授
名古屋大学文学部客員教授
専門は中世文学、宗教テクスト文化遺産学

大谷大学文学部教授
専門は中世文学、説話文学
明治大学文学部教授
専門は中世文学

書名

冊数

日本中世の宗教世界

阿部泰郎〈監修〉佐藤愛弓・牧野淳司〈編〉

定価 9,350円・本体8,500円
A5判・並製カバー装・584頁
2025年5月刊行
ISBN978-4-585-31021-1 C3014

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

高山寺本

こうさんじほん
みょうえしようにん
ゆめのきやくちゅう

明恵上人 夢記訳注

奥田 勲
平野 多恵
前川 健一
立木 宏哉
小宮 俊海
野呂 靖

編著

おくだ いさお：聖心女子大学名誉教授
ひらの たえ：成蹊大学文学部教授
まえがわ・けんいち：
創価大学大学院文学研究科教授
たちき ひろや：聖心女子大学ほか非常勤講師
こみや しゅんかい：
大正大学非常勤講師／智山伝法院非常勤講師
のろ・せい：龍谷大学心理学部教授

目次

【口絵】
「明恵上人夢記」第十篇 毘盧遮那の夢
「明恵上人手鏡」建久九年十月夢記

緒言：奥田 勲
凡例

I 影印

（明恵上人夢記）第十篇

II 解題

明恵「夢記」概観
高山寺本解題

III 訳注

凡例
高山寺本（訳注）
聖教等所載の夢記（目録・訳注）

IV 資料

『華嚴仏光三昧観冥感伝』訓読
夢記年表
明恵略年表
固有名詞解説
参考文献
夢記関連地図
事項索引
人名一覧

あとがき

謝辞
編著者・執筆者一覧

本書の特長

- 高山寺に所蔵される明恵上人夢記の影印・解題・翻刻・訓読・現代語訳・考察を収載した画期的な基礎文献。
- 夢・思想・宗教・歴史などの分析・検討に広く有用な資料を提供し、文学・思想・宗教・歴史・心理学・日本語学・古筆学・美術等、さまざまな研究分野に裨益する必携の一書。
- 「I 影印」には、「明恵上人夢記」第十篇全体の影印を掲載した。
- 「II 解題」では、「明恵上人夢記」の全体像と研究史を概観。また、高山寺蔵の夢記について詳細な解説を加えた。
- 「III 訳注」では、各夢記について【翻刻】【訓読】【現代語訳】【語釈】【考察】を掲載した。
- 「IV 資料」には、研究のツールとして有用な【華嚴仏光三昧観冥感伝】【訓読】【夢記年表】【明恵略年表】
【固有名詞解説】【夢記関連地図】【参考文献】【人名一覧】【事項索引】を収載した。

◆明恵上人とは…

一一七三～一二三二。鎌倉時代の華嚴宗の僧。三十四歳
に後鳥羽上皇の院宣により、梶尾を賜り、ここに高山寺
が開創される。著書に、『摧邪輪』など多数。

定価 8,800 円（本体価格 8,000 円）

A5判上製カバー装
580頁（カラー口絵2頁）
2025年10月刊行

ISBN978-4-585-31022-8 C3015

書名	冊数
高山寺本 明恵上人夢記訳注 奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖【編著】	定価 8,800 円（本体価格 8,000 円） A5判上製カバー装・580頁（カラー口絵2頁） 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-31022-8 C3015
増補改訂版明恵上人夢記訳注 奥田 勲・平野多恵・前川健一【編】	定価 8,800 円（本体価格 8,000 円） A5判上製カバー装・584頁（口絵2頁） ISBN978-4-585-31019-8 C3015 2024年11月刊行
ご注文先ご住所（通信欄）	

日本古文書学会編集
古文書研究
第99号

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

定価4,180円(税込)・本体3,800円・ISBN978-4-585-32409-6 C3321
B5判並製・カラー口絵8頁＋本文144頁・2025年6月刊行

カラー口絵

論文

平清盛印章考	百瀬顕永
「平頼綱政権」と禅空失脚事件	野村航平
宗源宣旨の成立と展開	桐田貴史
土佐中村領主山内良豊発給文書の基礎的研究 ——近世初期大名家文書の研究資源化と活用の事例として	安岡達仁

研究ノート

十四世紀東寺の評定衆制と意見状	貝塚啓希
-----------------	------

追悼文

平泉隆房氏を悼む	岡野友彦
----------	------

古文書めぐり

旧長谷川治郎兵衛家の収蔵資料	扇野耕多
----------------	------

随筆

大内義隆の遣明船派遣とその背景	丸島和洋
-----------------	------

書評と紹介

東野治之著『法隆寺と聖徳太子——一四〇〇年の史実と信仰』	榊原史子
森公章著『倭国の政治体制と対外関係』	仁藤敦史
武廣亮平著『古代出雲の氏族と社会』	橋本 剛
上代文献を読む会編『東大寺諷誦文稿注解』	藤井俊博
詫間直樹編著『新皇居行幸年表』	桃崎有一郎

日本古文書学会第五十六回学術大会要旨

彙報

口絵解説

仁和寺笈文書(三一九通)のうち「綸旨巻」一卷	佐藤健治
英文レジュメ	

書 名	部 数
古文書研究 第99号 日本古文書学会 [編]	定価4,180円(税込)・本体3,800円 ISBN978-4-585-32409-6 C3321 B5判並製・カラー口絵8頁＋本文144頁 2025年6月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

訓点語学会 [編]

平安時代初期から日本において漢文に記入されて来た古訓点を中心に、
広く国語史・文体史・古辞書等の研究をする人々の団体。

くんでんごとくんでんしりよう

訓点語と訓点資料

第一五五輯

一九五四年の刊行以来、訓点資料、訓点語(漢文訓読語)をはじめ、
文体史、音韻史、辞書史などに関する論文、資料紹介、解説文、索引など、
これまでに約500編を公表、広く利用されている学術雑誌。
年2回刊行。

[目次]

京都国立博物館蔵『梵字形音義』カラー口絵
京都国立博物館蔵『梵字形音義』―解題と影印―……宇都宮啓吾
高知県安田八幡宮蔵『大般若波羅蜜多經』の訓点と注記……佐々木 勇
漢字音の認定と字音仮名遣いをめぐって……石山裕慈
副詞「一向」の史的变化と変化のメカニズム……姚堯
呉語系中国資料の日本語音写にみられる
陰声韻と入声韻の転換……王 峻磊

第一三二回訓点語学会研究発表会発表要旨
彙報

令和六年度会計報告
令和六年度予算

訓点語学会会則
訓点語学会機関誌「訓点語と訓点資料」投稿規定

出版元変更のお知らせ

第二五五輯より、出版元が勉誠社に変更となりました。引き続き愛読のほど、何卒宜しくお願い致します。

《定期のお申込をいただいている書店様へ》
一五四輯の搬入時に、汲古書院様ならびに当社より版元変更のご連絡をさせていただいておりますが、今後定期改正等のご連絡は、勉誠社宛にお願い致します。

《バックナンバーについて》
勉誠社へ直接ご用命くださいませ。詳細ご相談させていただきます。

定価 4,950 円(本体価格 4,500 円)

B5判・並製・176頁
ISBN978-4-585-38101-3 C3380
2025年10月刊行

注 文 書	書 名	部 数	書店印
	訓点語と訓点資料 第一五五輯 訓点語学会[編]	部	
	訓点語と訓点資料 訓点語学会[編]	部	

注
文
書

訓点語と訓点資料
第一五五輯

訓点語学会[編]

訓点語と訓点資料

訓点語学会[編]

年2回(9月・3月)発行 【定期申込】

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.<http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

和様と唐様の 建築史学史

建築の様式を、問い直す

「和様」「大仏様」「禪宗様」——中世日本建築を理解するうえで自明とされてきた様式概念だ。しかしその枠組みは、数多の建築がもつ固有の歴史や多層的な意味を、はたして十全に捉えきれているだろうか。そもそも「和様」とは何か。「禪宗様」という言葉が取りこぼすものは何か。

本書は、建築史学の根幹をなすこの問いへ、多角的かつ学際的な視点から肉薄する。

第一部では、曖昧さのなかにあった「和様」の系譜を丹念に辿り、その全体像を再編する。

第二部では、固定観念と化した「禪宗様」を解きほぐし、その内部に潜む「唐様」の痕跡を探る。

二つの討議を中心に、多彩な論考と視点が思考の固定化を打ち破り、新たな研究の地平を切り拓く。日本建築史の現在地を俯瞰し、未来を展望する最前線。

序言

第一部 和様の系譜学——変容を辿り再編する

《討議》

〈和様〉建築の再検討

◎黒田龍二・富島義幸・野村俊一・箱崎和久・溝口正人

《論考》

和様の源流と系譜◎箱崎和久

宮殿・住宅建築における「和様」と折衷◎溝口正人

平安時代の建築様式の再考——鳳凰堂は和様か◎富島義幸

神社本殿形式の分類と変遷◎黒田龍二

《視点》

諸種の「和様」と日本建築史◎野村俊一・和様建築史研究会

第二部 禪宗様をばどく——唐様の痕跡を探る

《討議》

中世建築様式を問い直す——「禪宗様」を中心に

◎上野勝久・奥健夫・永村眞・野村俊一・藤井恵介・光井渉

《論考》

建築史における技術と様式——様式折衷の記述方法◎藤井恵介

日本彫刻史の様式概念

「写実主義」「宋風」および「和様」について◎奥健夫

寺院建築における様式概念の生成◎光井渉

中世寺院建築の意匠とその流通をめぐる

——詰組・台輪・東アジア◎野村俊一

中世鏝阿寺における堂宇と法会◎永村眞

鏝阿寺本堂を通してみた様式の理解◎上野勝久

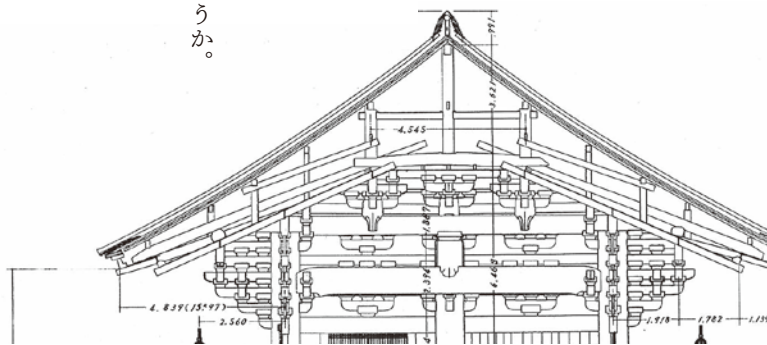
《視点》

中世禅僧と造営・土木知識◎川本慎自

定光寺本堂の昭和修理に示された「唐様」概念

——様式概念と文化財修理の相互補充関係について◎青柳憲昌

あとがき／執筆者紹介



定価8,800円・本体8,000円
A5判・並製カバー装・544頁
2025年7月刊行
ISBN978-4-585-35004-0 C3052

書名

和様と唐様の建築史学史

野村俊一〈編著〉

冊数

定価8,800円・本体8,000円
A5判・並製カバー装・544頁
2025年7月刊行
ISBN978-4-585-35004-0 C3052

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀〔編〕

アジア遊学
306

建築とオリジナル

創造・継承・解釈

〔目次〕

カラー口絵

巻頭言 巻頭言 建築のゆれうごく価値

「オリジナル」をどう捉えるか◎加藤悠希

第一部 かたちに宿る意味

中世興福寺の伽藍復興にみる建築の規範と継承◎海野聡
中世の神社本殿にみる造形の伝播と獨創性◎是澤紀子
神社本殿の形式分類と模倣の論理◎加藤悠希
無著道忠の著作にみる江戸時代中期における

寛政度内裏造営における復古の視座◎加藤悠希

吉田五十八の「平安調」へのまなざし◎大井隆弘

「コラム」茶室とオリジナル◎米澤貴紀

「コラム」古典主義における理想的原型の追求◎横手義洋

第二部 場のしつらえと再現

習合神道儀礼の場の構造◎米澤貴紀

神道灌頂の道場と設え——三輪流神道にまつわる絵画を中心に◎郷司泰仁
王朝物語絵にみる江戸後期における打出の復古

「コラム」女性の空間を暗示する女房装束◎赤澤真理

「コラム」平安朝服飾と建築、空間、場——十世紀の宮廷社会◎伊永陽子

「コラム」『源氏物語』の再現展示をめぐる◎赤澤真理

第三部 保存をめぐる模索

民家等の修理や復原における

「コラム」古材保存材料と形式保存意匠の対立◎坂井慎介

「コラム」建築遺産のオリジナルとオーセンティシティ

「コラム」文化財の塗装工事における

「オリジナル」の価値とその保全◎北脇翔平

——正祖年間の八達門扁額の丹青復原に関する研究◎金碩顯・具本能

第四部 受け継ぐことの論理

城郭建築のオリジナルと復元◎稲垣智也

「コラム」中国の文化財制度におけるオリジナルの扱いについて◎李暉

建築の生命倫理について考える——保存と再生の事例から◎野村俊一

座談会 建築は変化してもよいのか、オリジナルのままがよいのか

◎赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀・伏見唯

後記◎赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀

定価 4,180 円
(本体 3,800 円)

A5判並製カバー装
416頁+カラー口絵8頁
ISBN 978-4-585-32552-9 C1352
2025年8月刊行

書名	部数
建築とオリジナル 創造・継承・解釈〔アジア遊学306〕 赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀〔編〕	部
ご注文先（氏名・住所・電話番号）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

社寺建築を

知るための

用語集

日本の歴史的建築を考える

各地に残された日本の木造建築の構造を理解するための絶好の入門書。

日本の社寺建築は三〇〇年の歴史を持ち、各時代に建てられた様々な建造物が数多く残されている。

それらは建てられた時代や所在する地域の特徴を示しており、日本の歴史・文化を知るための重要な資料となっている。

しかし、これらの木造建築に関わる用語は、単にその数が極めて多いだけではなく、時代や建造物の種類によって

名称・解釈が異なることもあり、研究者ですらとまどう場面も少なくない。

伝統的な木造建築の歴史研究および文化財建造物の保存修理を長年リードしてきた著者が、

日本建築の歴史を考えるうえで重要な用語を豊富な図版資料と共に解説。

カラー口絵
はじめに

第一章 仏堂

第二章 寺院の礼拝空間

第三章 神社建築

第四章 屋根の基本形式

第五章 門

第六章 塔

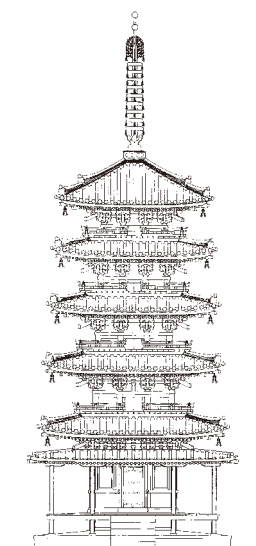
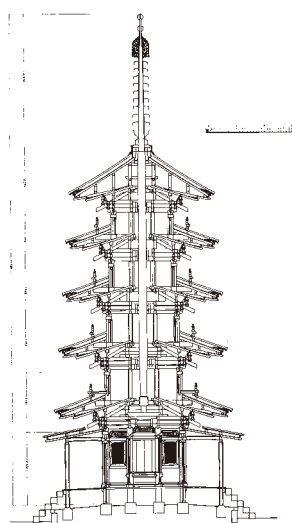
第七章 基礎・軸部

第八章 組物

第九章 軒・架構・天井

第十章 小屋組と野地

第十一章 妻飾



濱島正士 著

昭和十一年、大阪府生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業。京都府教育庁技師、文化庁文化財調査官として文化財建造物の修理・調査に従事。国立歴史民俗博物館教授、別府大学教授を経て、(公財)文化財建造物保存技術協会理事長、会長を歴任。現在、国立歴史民俗博物館名誉教授、(公財)文化財建造物保存技術協会顧問、工学博士。専門は、日本建築(社寺建築史)。主な著書に「日本仏塔集成」(中央公論美術出版、平成十三年)など多数。

文化財建造物保存技術協会(編集協力)

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

書名

社寺建築を知るための用語集

日本の歴史的建築を考える

濱島正士(著)文化財建造物保存技術協会(編集協力)

冊数

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

黒田日出男〔著〕

徳川美術館蔵

一九四三年生まれ。東京大学名誉教授。文学博士。専門は日本中世・近世史、絵画史料論・歴史図像学。著書に『豊国祭礼図を読む』『洛中洛外図・舟木本を読む』『江戸図屏風の謎を解く』（以上、角川選書）、『増補』絵画史料で歴史を読む（ちくま学芸文庫）、『岩佐又兵衛と松平忠直』（岩波現代全書）、『謎解き洛中洛外図』『龍の棲む日本』（以上、岩波新書）など多数。

ゆうらく・ず・びょうぶ

遊楽図屏風

(相応寺屏風)

は語る

將軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生

絵画を見る眼が変わり、
歴史のイメージが一変する
第一級の知的エンターテインメント！



カラー口絵 徳川美術館蔵「相応寺（遊楽図）屏風」

右隻・左隻全図

巻頭図版

徳川美術館蔵「相応寺（遊楽図）屏風」
右隻・左隻全図トレース図（制作：鷹野佳世子）

プロローグ

遊楽図屏風は何を物語るのか？

第Ⅰ章

「相応寺屏風」の研究史
——論じられ方とその問題点

第Ⅱ章

「相応寺屏風」右隻の読解
——花見の酒宴とその主人公

第Ⅲ章

「相応寺屏風」左隻の読解
——宏壮な大名下屋敷で遊楽する人々

《補題》

「下屋敷」をめぐる二、三の論点

第Ⅳ章

「相応寺屏風」の注文主と享受者
——浅野長晟と徳川義直の妻春姫

エピソード

尾張徳川家当主義直の
妻春姫の江戸居住と「相応寺屏風」

「遊楽図屏風」全編のカラー画像および
詳細なトレース図を収載！

宏壮・豪華な邸宅における遊楽・遊興が描かれ、
遊びに興じている人物たちのさまざまな姿が表現される「邸内遊楽図」。
江戸時代初期に流行し、多くの作品が残されたが、
なかでも徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は
最優品として知られる近世風俗画の逸品である。
その左隻の豪華な邸宅を妓楼・遊廊・遊里とみる見解が
定説となつてからすでに五十年近くになる。
しかし、この定説は間違っているのではないか？
そもそも相応寺屏風は、きちんと読解されてこなかったのではないか？
注文主は何者か、屏風はいつ、誰に贈られたのか——
屏風に描かれた画像の細部を綿密かつ多面的に読み解くことで、
そこに隠されたメッセージを浮かび上がらせ、
本作品が將軍家光の時代にどのように生まれてきたのかを明らかにする。

主要参考文献／邸内遊楽図屏風のリスト／あとがき

定価4,180円・本体3,800円
A5判・上製カバー装・386頁
2025年6月刊行
ISBN978-4-585-32068-5 C1021

書名	冊数
徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺）」は語る 將軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	冊
定価4,180円・本体3,800円 A5判・上製カバー装・386頁 2025年6月刊行 ISBN978-4-585-32068-5 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

洛中洛外図屏風の歴史学

歴博甲本から
吉川史料館本まで(仮)

定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・2025年11月刊行
704頁+カラー口絵4頁(予定)
ISBN978-4-585-32074-6 C3021

洛中洛外図屏風についての既発表論文十七本を最新の知見より改訂し、研究史、名称、成立背景、受容と伝来、系統分類、景観年代、金雲の形状、貼り札について考察した新稿など十六本を加えた、研究の集大成。室町時代後期の洛中洛外図のみならず、江戸時代前期・中期の作品も取り上げ、洛中洛外図屏風を体系的に明らかにする。関連作品を網羅した作品一覧、貼り札のある作品の文字を書き起こした貼り札一覧も収載。歴史学、美術史、建築学、文化史など広く隣接分野に寄与する画期的成果。

カラー口絵／まえがき

第一部 洛中洛外図屏風とは何か

●第一章：江戸時代の洛中洛外図の研究状況 ●第二章：洛中洛外図の名称について ●第三章：江戸時代の洛中洛外図の受容と伝来 ●コラム：貿易品としての洛中洛外図 ●第四章：洛中洛外図の系統分類方法 — 研究の視点について ●第五章：洛中洛外図の景観年代の指標について ●第六章：洛中洛外図の金雲について ●第七章：洛中洛外図の貼り札について

第二部 室町時代後期の洛中洛外図屏風

●第一章：上杉本洛中洛外図成立の一試論 — 奥に乗る貴人 ●第二章：洛中洛外図にみる下京の暮らし ●第三章：洛中洛外図にみる京郊村落

第三部 江戸時代前期の洛中洛外図屏風(一)

●第一章：江戸時代の洛中洛外図 ●第二章：江戸時代の洛中洛外図の主題と構図について — 二条城前の行列を手掛かりに ●第三章：林原美術館本洛中洛外図の構図と主題と発注者 — 室町期・江戸期の洛中洛外図屏風との関係を通して ●第四章：林原美術館本洛中洛外図と同一工房の作品について ●第五章：補論 ●第六章：堺市博物館本系統洛中洛外図について — 耕三寺博物館本の紹介を兼ねて ●第七章：林家本系統洛中洛外図について

第四部 江戸時代前期の洛中洛外図屏風(二)

●第一章：舟木本洛中洛外図の構図について — 「当閑白」の牛車を手掛かりに ●第二章：「舟木本洛中洛外図」再考 ●第三章：司馬家本系統洛中洛外図について ●第四章：根津美術館本洛中洛外図の特徴と制作について ●コラム：洛中洛外図にみる伏見城

第五部 江戸時代中・後期の洛中洛外図屏風

●第一章：佛敎大本系統洛中洛外図について — 甲群、乙群、丙群の三つの系統 ●第二章：住吉具慶本洛中洛外図作品群の描写内容と特徴 — 江戸時代中期の洛中洛外図屏風の研究 ●第三章：住吉具慶筆洛中洛外図の構図について — 生類憐みのとの関係 ●第四章：洛中洛外図屏風歴博F本の位置付けについて ●第五章：渡辺美術館本系統洛中洛外図について ●第六章：朝鮮通信使行列を描くボストン美術館本洛中洛外図について — 天和三年の将軍献上屏風の可能性 ●第七章：吉川本洛中洛外図の制作背景 — 歌人宣阿と『陰徳太平記』との関連

展示批評 企画展示「洛中洛外図屏風と風俗画」

●付論一：『都百景』の制作と構成について — 描かれた幕末の京都 ●付論二：京都舎密局の写真事業 — 公文書と写真資料から ●終章：まとめと課題

洛中洛外図屏風の貼り札／初出一覧／あとがき：洛中洛外図の研究を振り返って／索引

大塚活美

〔著〕

一九五九年、滋賀県に生まれる。立命館大学文学部史学科日本史専攻を卒業後一九八二年より京都府に学芸員として勤務(京都府立総合資料館、京都文化博物館、京都学・歴史館)。その間に佛敎大学歴史学科修士課程を修了。退職後は京都府立大学非常勤講師、滋賀県高島市と竜王町の文化財保護審議会委員。主な著書に『日本歴史地名大系 滋賀県の地名』(共著、平凡社、一九九二年二月)、『図説安倍晴明と陰陽道』(共著、河出書房新社、二〇〇四年八月)、『石の文化財から探る滋賀の歴史』(サンライズ出版、二〇二四年)などがある。

書名	冊数
洛中洛外図屏風の歴史学 ——歴博甲本から吉川史料館本まで(仮) 大塚活美〔著〕	定価 13,200円・本体12,000円 A5判・上製カバー装・2025年11月刊行 704頁+カラー口絵4頁(予定) ISBN978-4-585-32074-6 C3021
ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

大山和哉〈著〉

同志社大学文学部国文学科准教授。専門は近世和歌文学。著書に『輪切りの江戸文化史 この一年に何が起こったか?』(共著、勉誠出版、二〇一八年)、『和歌文学大系六九 晩華和歌集/賀茂翁家集』(共著、明治書院、二〇一九年)、『平白集』(評釈、和文篇)(共著、和泉書院、二〇二三年)、論文に『四生の歌合』の立場、『歌合の本質と展開』(法蔵館、二〇二四年)など。

和歌が生まれるとき

近世歌人の方法

徳川幕府が開かれて近世という時代が始まり、それに応じて諸種の社会的変化が生じる中で、和歌もまた既存のあり方から大きくその内実に変容を来した。堂上(とうしょう)・地下(じげ)を問わず、様々な人びとがそれぞれに多様な目的意識のもとに、多様な方法を用いながら、「歌道」という一つの世界に参画していく。彼ら／彼女らは、なぜ和歌という表現手段を選び、詠出したのか——詠歌、歌学、和文、歌道伝授、古典研究などの営為を精緻に分析し、歌人それぞれの和歌活動における固有の動機を把握。和歌が開かれていった十七世紀という時代に和歌が持ち得た多様な意義を浮かび上がらせることで、人びとが文学といかなる関係を結んできたか／結びうるかを照らし出す意欲作。

定価 12,100円・本体11,000円
A5判・上製カバー装・544頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39057-2 C3095

緒言

凡例
底本一覧

第一部 近世初期堂上和歌の前提

- 第一章 後陽成院の歌学、詩学、実作
〔補説〕後陽成院による知の集積と共有
第二章 三条西実条和歌詠草に見る表現の模索
第三章 中院通村の和歌添削指導と役割
——近衛尚綱宛書状に基づく考察

第二部 後水尾院歌壇における歌道の実相

- 第一章 後水尾院の歌論と添削指導
第二章 後水尾院の和歌の方法——詠み方と読まれ方から
第三章 後水尾院歌壇における漢文学の利用
第四章 『伊勢物語』の注釈と詠歌への利用
——後水尾院と契沖の比較を通して

第三部 歌道伝授と歌学

- 第一章 後西院の古今集講釈——近衛基瀬の古今集問書二種による考察
第二章 近衛基瀬の三部抄伝授
第三章 中院通茂『未来記』雨中吟『講釈』の意義
第四章 中院通茂の秀句観と木下長嘯子の秀句
第五章 新上西門院と栄子内親王の筆写資料
——同志社大学蔵二条家文書より

第四部 近世前期地下歌人の動向

- 第一章 木下長嘯子『平白集』和文の典拠と構造
——『源氏物語』撰取を中心に
第二章 下河辺長流と木下長嘯子『平白集』
第三章 下河辺長流の学問と歌材
第四章 契沖『古今余材抄』の典拠と実作
第五章 井上通女の詠歌態度——「身振り」としての和歌
結語／あとがき／初出一覧
索引(書名／人名／事項／和歌・連歌初句／和歌・漢詩句)

書名	冊数
和歌が生まれるとき 大山和哉〈著〉	冊
定価 12,100円・本体11,000円 A5判・上製カバー装・544頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-39057-2 C3095	
ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)	

ピーター・コーニツキー〔著〕

外から見た

江戸時代の書籍文化

写本・版本・在外書籍

江戸時代、女性の読書はどのように位置づけられていたのか。
近世初期に勃興した活字印刷は、
なぜ、製版印刷に駆逐されたのか。

日本各地にのこるおびただしい数の写本は、
日本文化史のなかに、どのように位置づけられるのか。

海外の図書館に、なぜ多量の日本書籍が所蔵されているのか、
それはいつ持つてこられたのか。

日本の外からの視点を取り入れることで、
日本における書籍文化の歴史が、より鮮明に見えてくる。

日本の書籍文化史を海外からの視点で読み解き、
学界をリードしてきた

ケンブリッジ大学名誉教授

ピーター・コーニツキーによる

日本書籍文化史講義！

著者プロフィール

ピーター・コーニツキー (Peter Kornicki) 一九五〇年、イギリス、メイデンヘッド生まれ。
オックスフォード大学大学院博士課程修了 (D.Phil.)。二〇一一年、オックスフォード大学文学博士 (D.Lit.) 取得。元ケンブリッジ大学東洋学部長。ケンブリッジ大学名誉教授。専門は日本文化史。主な著書に『海を渡った日本書籍 ヨーロッパへ、そして幕末・明治のロンドンで』(平凡社、二〇一八年) などがある。

目次

凡例
序章 わたくしと日本書籍の研究

第一部 江戸前期——朝鮮本、活字本、女性読者

第一章 近世日本における朝鮮本

第二章 古活字版の終焉

第三章 『源氏物語』・『伊勢物語』と江戸前期の女性読者

第二部 写本の諸相

第四章 写本と転写

第五章 写本の類型

第六章 写本の蔵書と貸借

第七章 禁書の流布

第八章 江戸時代の測量書と古銭書の写本

第三部 海外に流れた日本書籍

第九章 日本書籍の海外流出

——クラブロフト旧蔵の日本書籍を中心に——

第一〇章 フィラデルフィアで刊行された『画本鶯宿梅』

終章 明治文学になった江戸文学

資料紹介 『書物入出』(架蔵)

あとがき

初出一覧

索引(人名・書名)

定価 九、九〇〇円

本体 九、〇〇〇円

A5判並製カバー装・四九六頁

二〇二五年七月刊行

ISBN978-4-585-32067-8 C3020

書名	部数
外から見た江戸時代の書籍文化 写本・版本・在外書籍 ピーター・コーニツキー〔著〕	定価 9,900円 (本体価格 9,000円) A5判・並製カバー装・496頁 2025年7月刊行 ISBN978-4-585-32067-8 C3020
ご送付先ご住所 (通信欄)	

小林祥次郎 〓 解題

(こばやししょうじろう) 昭和十三年二月、栃木県栃木市に生まれる。昭和三十五年三月、東京教育大学文学部文学科卒業。平成十三年三月、小山工業高等専門学校教授を退官。主要著書に、『書言字考節用集 研究並びに索引』(中田祝夫と共著、風間書房、同改訂新版、勉誠出版)、『季語再発見』(小学館)、『日本のごとば遊び 新装増補版』(以下すべて勉誠出版)、『梅と日本人』、『日本古典博物事典 動物篇』、『くいのー食の語源と博物誌』、『人名ではない人名録ー語源探索』、『仏教からはみだした日常語ー語源探索』、『遊びの語源と博物誌』、『季語をさかのぼる』など。

江戸時代の
図説事典

KINMO-ZUI

さんもうずい

訓蒙図彙

江戸時代に作られた
わが国最初の絵入り百科事典！

江戸時代初期、寛文六(一六六六)年刊の、わが国最初の図説事典の初版初刷り本を復刻。日本の博物学の歴史に輝く名著として名高く、後続の絵入り事典の模範となった。総語彙数約八千語を収録し、日本語・日本文学、風俗史、博物学史の有力資料であり、一四八四点におよぶ精緻な図は、今日でも図版やデザイン画として様々な利用できる。

二〇二二年に刊行し、好評を得た『江戸のイラスト辞典 訓蒙図彙』が、装いも新たに刊行！



● 影印

訓蒙図彙 第一〜五冊

天文 禽鳥
地理 龍魚
居処 虫介
人物 米穀
身体 菜蔬
衣服 瓜蒌
宝貨 樹竹
器用 花草
畜獸

● 「訓蒙図彙」解題と索引

索引 解題

定価 11,000円・本体10,000円
菊判・並製カバー装・1168頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-30019-9 C3001

書名	冊数
江戸時代の図説事典 訓蒙図彙 小林祥次郎〈解題〉	冊
定価 11,000円・本体10,000円 菊判・並製カバー装・1168頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-30019-9 C3001	
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

書物学

29

特集

葛屋重三郎と日本の出版文化

葛重手引草

定価2,200円・本体2,000円
B5判・並製・フルカラー112頁
[書物学No.29]
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-30729-7 C1000

出版物が百花繚乱となった江戸時代に目を向けると、そこには葛屋重三郎、西村屋与八のような版元、北尾政重や葛飾北斎ら浮世絵師など、さまざまなキャストが浮かび上がってくる。江戸・明治の人びとは書物とどのように付き合ってきたのか、その営みはどのような資料や痕跡から辿ることができるのか――。書物研究の先達へのインタビューを収載。また出版文化・書物文化のあり方を鮮やかに照らし出す太田記念美術館・大東急記念文庫・印刷博物館・たばこと塩の博物館・国文学研究資料館の学芸員による最新の知見を示すことで、日本の書物文化の面白さと広がりを示す画期的な一冊！

Interview

塩村耕

鈴木俊幸

書物に出会う、
書物を愛する

座談会

五館「葛重手引草」の
魅力を語る

- 太田記念美術館(赤木美智) ●大東急記念文庫(長田和也・木村孝太)
- 印刷博物館(宇田川龍馬) ●たばこと塩の博物館(湯浅淑子)
- 国文学研究資料館(木越俊介・入口敦志)



連携館紹介

- 太田記念美術館・日野原健司 ●大東急記念文庫・木村孝太
- 印刷博物館・中西保仁 ●たばこと塩の博物館・湯浅淑子 ●国文学研究資料館・木越俊介

口上：長田和也
印刷・出版というコミュニケーションメディアの葛屋重三郎：宇田川龍馬
葛屋重三郎を陰で支えた浮世絵師：北尾政重 日野原健司
「コラム」それぞれの出版戦略——西村屋与八と風景画：赤木美智
「葛重、庄巻、大・中・小」番外編：木越俊介
「コラム」書型からみる葛重版：木越俊介
大東急記念文庫所蔵の黄表紙・洒落本・古原関係資料：長田和也
「コラム」吉原俄と玉菊燈籠の一枚摺り番附：長田和也
十八世紀のおもちゃ絵と葛屋重三郎：湯浅淑子

連載

- 佐々木孝浩
- 佐藤道生

書名	冊数
葛屋重三郎と日本の出版文化 ——葛重手引草 編集部〈編〉 定価2,200円・本体2,000円 B5判・並製・フルカラー112頁 [書物学No.29] 2025年8月刊行 ISBN978-4-585-30729-7 C1000	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

藤野 博〔著〕

あいざわ・せいし

會澤正志齋と
水戸学の国体論

明治維新の思想的原動力となり、近代国家建設の基軸となった国体論。その思想はどのように始まり、社会に浸透したのか。

また人々にどのような影響を与えたのか。

水戸学における国体論の大成者である會澤正志齋に光を当て、

その生涯や思想に迫るとともに、

主著『新論』が西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允といった

幕末の志士たちに与えた影響を明らかにする。

また、国体論の思想的限界についても触れる一方、

現代においてもその理念が生きていることを提示するなど、

多角的な視点から国体論の歴史的意義を解明する。

會澤正志齋（あいざわ・せいし）

天明2年（1782）〜文久3年（1863）
幕末の水戸藩士・儒学者であり、後期水戸学
の大成者。名は安（やすし）、正志齋は号。藤
田幽谷に師事して儒学・史学を学ぶ。修史局
の彰考館総裁や藩校弘道館の初代総教など
を歴任。代表作『新論』において、天皇を頂点
とする「国体」の自覚の下に外国勢力を打ち
払うべきであるとする尊王攘夷思想を理論
化した。

目次

はじめに

第一章 會澤正志齋の生涯

第二章 水戸学の発生・発展と師・藤田幽谷

第三章 国体論の大成

第四章 藤田東湖と會澤正志齋

第五章 水戸学に感化された幕末の志士たち

第六章 国体論の歴史的意義と思想的限界

第七章 近代日本の国家思想となった国体論

第八章 思想家・実業家・学者・文学者による多彩な国体観

第九章 国体思想の現代的意義

おわりに
参考文献

著者プロフィール

藤野 博（ふじの・ひろし）

一九四三年札幌市生まれ。一九六五〜二
〇〇三年北海道立高等学校教員。著書
に『三島由紀夫と神格天皇』（勉誠出版、
二〇二二）、『三島由紀夫の国体思想と魂
魄』（同、二〇二八）、『三島由紀夫と日本
国憲法』（勉誠社、二〇二二）がある。

本書の特色

▼国体論の大成者會澤正志齋の著
作をひも解き、多角的視点から
国体論を解明する。
▼西郷・大久保・木戸などの、国体
論に感化された幕末の志士たち
を描き出す。
▼国体論を基盤とした大日本帝国
憲法と教育勅語の「正の側面」と
「負の側面」を明示する。

定価 二、二〇〇円
本体 三、〇〇〇円四六判並製カバー装・二〇〇頁
二〇二五年八月刊行
ISBN978-4-585-32073-9 C1021

書名	部数
會澤正志齋と水戸学の国体論 藤野 博〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 3,300円（本体価格3,000円）
四六判・並製カバー装・200頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-32073-9 C1021

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

中丸禎子・田中琢三〈編〉

東京理科大学准教授。
専門は北欧文学・ドイツ文学。

お茶の水女子大学教授。
専門は近代フランス文学、比較文学。

北欧ロマンと ナショナリズム

内村鑑三・開拓・民族主義

「幸せな北欧」「世界」幸福な国デンマーク……
日本における「北欧」の典型的なイメージは「幸せ」「幸福」をキーワードにしたものが多い。
「幸福度ランキング」の順位、福祉の充実、ジェンダー平等、無償の高等教育といった具体例が付されることも多う。
そのような日本でのイメージは、どのように形成されてきたのか。
周辺の大国の動向に翻弄された北欧の近現代史において、実際の社会はどのように変化し、世界にどのような影響を与えたのか。
内村鑑三『デンマルク国の話』を参照軸に、北欧と日本の実像とイメージの分析を通じて、「幸せな北欧」とそれを存立させてきた歴史、
その歴史を紡いだ人間の良心と勤勉さ、誠実さの中に潜む不可視化された暴力、差別、排除の実態を検証。
近現代の日本・北欧・ヨーロッパの思想と宗教を分野横断的に考察する。

序……中丸禎子

第一部 内村鑑三『デンマルク国の話』とキリスト教

内村鑑三『デンマルク国の話』——背景および「原典」との比較……中丸禎子

国民高等学校と満蒙開拓——加藤完治と賀川豊彦のデンマーク受容……中丸禎子

ユートピアとデンマークの夢——賀川豊彦の一九二五年デンマーク訪問……ペーターセン エスベン

内村鑑三における帝国と日本——フィンランド観を通して……渡部和隆

高橋健二版『デンマルク国の話』——ドイツ文学者の戦争責任と「幸せな北欧」……中丸禎子

無教会キリスト教の「新日本」構想——内村鑑三の継承者たちによる「日本的キリスト教」プロジェクト……赤江達也

かくれキリシタンが保持したもの——信仰における聖職者の役割……中國成生

江戸時代の「キリシタン」演劇——「国家」「民族」「血縁」……加藤敦子

ヴァルヘルム・グンデルト——ドイツ人宣教師から日本・東洋研究者へ……兼岡理恵

第二部 民族主義・平和主義と暴力の不可視化

セルマ・ラーゲルレーヴ『エルサレム』——「血と土」思想、宗教、ジェンダー……中丸禎子

インガオサムスの兵役拒否と撤回——反戦平和主義とラーゲルレーヴ『エルサレム』の翻訳……中丸禎子

モーリス・パレスにおける文化的植民地主義——ラインラントをめぐる……田中琢三

ナショナル・シンボルとしてのN・F・S・グロントヴィー——デンマークの国民形成と「フォルク」の思想……田淵宗孝

第三帝国のルーン学——ヘルムート・アルントの軌跡……小澤実

北欧神話、極右思想、ジェンダーとセクシュアリティ——ゲルマン系ネオペイガニズムの展開——シュテファニー・フォン・シュヌアバイン

戦後デンマーク国家における軍事化はいかに不可視化されたか——国連・米国／NATO、グリーンランド……高橋美野梨

あとがき……田中琢三／関連年表・関連地図……中丸禎子

定価4,180円・本体3,800円
A5判・上製カバー装・368頁
アジア遊学304・2025年7月刊行
ISBN978-4-585-32550-5 C1322

書名	冊数
北欧ロマンとナショナリズム 内村鑑三・開拓・民族主義 中丸禎子・田中琢三〈編〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価4,180円・本体3,800円
A5判・上製カバー装・368頁
アジア遊学304・2025年7月刊行
ISBN978-4-585-32550-5 C1322

神奈川大学日本常民文化研究所〈編〉

書物學₃₀

書物から 渋沢敬三を読む

すべては屋根裏から
始まった。

渋沢栄一の孫である渋沢敬三が、広大な邸宅の片隅にあった物置小屋の天井のない二階で始めたアチック・ミュージアム。子爵家のエリートでありながら農民や漁民などの常民に目を向けた渋沢は日常の生活道具である民具とともに、漁業史をはじめとする古文書や書物を集めて研究する学問の場をつくった。研究員を雇い、全国の研究者と交流して成果や資料を出版する活動はやがて日本の歴史学や民俗学、アーカイブズ、博物館を動かしていく。収集・収蔵された膨大な資料と刊行物を手に取って調べることを通じて渋沢敬三が織りなした在野の知の営為を書物から読み解く。

特集に寄せてⅡ丸山泰明

知の海へ漕ぎ出で、野の字を耕す——渋沢敬三の学問と書物Ⅱ丸山泰明

第一部・書物の収集・蓄積・公開

祭魚洞文庫の世界Ⅱ泉水英計

COLUMN 渋沢敬三の書齋Ⅱ丸山泰明

第二部・古文書から書物へ

アチック・ミュージアムにおける古文書整理と史料集刊行——祭魚洞文庫を中心にⅡ関口博巨

「常民古文書」の出版Ⅱ窪田涼子

資料を複写して残す——戦後の資料収集事業と筆写稿本の作成Ⅱ越智信也

COLUMN 日常の記録と災害Ⅱ窪田涼子

第三部・ビジュアル資料と書物

アチックの写真・映像資料——文脈化の累積Ⅱ高城玲

COLUMN 渋沢敬三と「絵引」——「絵引」の意義と可能性Ⅱ巽昌子

第四部・地方の書き手と出版

「文字をもつ伝承者」の生活記録——アチックの出版と地方の研究者たちⅡ山本志乃

漁する手が持つ筆の跡——進藤松司と林勘次郎Ⅱ川島秀一

COLUMN 渋沢敬三の本づくりⅡ丸山泰明

附録

施設紹介 神奈川大学日本常民文化研究所

渋沢敬三略年譜

アチック・ミュージアムおよび祭魚洞文庫の間取り図

渋沢敬三著書・編著書一覧

日本常民文化研究所刊行物一覧



書名

書物から渋沢敬三を読む

神奈川大学日本常民文化研究所〈編〉

冊数

定価2,200円・本体2,000円

B5判・並製・フルカラー112頁

〔書物学No.30〕

2025年9月刊行

ISBN978-4-585-30730-3 C1000

冊

ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

海と陸のはざま

アジア・太平洋の干潟文化を語る

アジア遊学 310

定価 三八五〇円(税込)
【本体三五〇〇円】

A5判・並製カバー装
カラー口絵8頁+本文312頁
ISBN978-4-585-32556-7 C1345
二〇二五年十一月刊行

秋道智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター所長)

辻 貴志 (アジア太平洋無形文化遺産研究センター(RCJ)・アソシエイトフェロー)

【編】

人類と干潟とのかかわりを考える――

干潟とは、海と陸との間に発達した領域であり、生態学的移行帯(エコトーン)でもある。

干潟の文化は先史時代から連綿と継承されてきた海辺の文化資産であり、そこに生息する生き物は、ヒトにさまざまな種類の食料をもたらしてきた。

しかし、今日、干潟は埋め立てや護岸工事による破壊、干拓による農耕地化や住宅建設などの、人為による環境破壊により危機的な状態にある。

干潟文化を日本(とくに、九州・琉球を始めとする西南日本)、東南アジア、オセアニアの比較事例からひもとき、干潟文化を具体的かつ多面的な次元で考究。

考古学、人類学、地域研究、民俗学、地理学、環境社会学などの多様な側面から、「干潟文化」に総合的にアプローチする。

人類が平等かつ心豊かに生きるためのヒントを秘めている干潟。

人類と生き物にとつての干潟の意義について地球規模の視座から理解を促す。

目次

カラー口絵

【序論】アジアの干潟を探る ●秋道智彌

第一部 干潟の歴史と文化

ベトナムの干潟漁からみる、二〇〇年のマングローブと干潟のつながり ●鈴木伸二

パプアニューギニアの干潟貝類と貝貨 ●門馬一平

先史琉球列島の貝類を運ぶネットワーク ●山野ケン陽次郎

「コラム」干潟のにぎわい ―漂海民モーケンの女性たち ●宮澤京子
観光化に揺れる干潟 ―フィリピン・ボホール州パンクラオ島の事例 ●シンチア・ネリ・ザヤス(翻訳・辻貴志)

第二部 干潟の漁撈文化

川がつなぐ陸と干潟 ●藤村美穂

魚垣が繋ぐ命 ―琉球列島の伝統漁法と生物文化多様性 ●上村真仁

「コラム」旧児島湾の干拓の進展と樫木網漁の変遷 ●真鍋篤行

「コラム」干潟の伝統漁具「石干見」 ●田和正孝

韓国の干潟と漁撈 ●李惠燕

台湾における石滬研究の現在 ●田和正孝

干潟における生物採捕のわざ ―フィリピン・パラワン島南部の先住民モルボッグの事例 ●辻 貴志

第三部 干潟の生き物と食

富山湾沿岸の縄文時代の干潟と食からみた小竹貝塚の人と水辺の関わり ●納屋内高史

「コラム」肥料としての干潟の生き物・貝(イボキサゴ)

―東京内湾の事例から ●秋山笑子

近代日本の干潟にみる多様な漁業と食 ●秋道智彌

とつて・食べる ―おやつもおかずとりも金儲けも ●野中健一

「コラム」イオウを味わう

―西太平洋地域におけるマングローブ泥干潟のツキガイ利用 ●池口明子

第四部 干潟の保全と未来

社会的エコトーンとしてのマングローブ干潟

―インドネシア南スラウエシ州の調査から ●田中耕司

干潟の生物資源と環境保全 ●石川智士

「コラム」アジアの干潟の絶滅危惧種カプトガニ ―日本の教訓 ●清野聡子

和白干潟の自然と保全活動について ●山本廣子

あとがき ●辻 貴志

書 名	部 数
海と陸のはざま アジア・太平洋の干潟文化を語る 【アジア遊学310】 秋道智彌・辻 貴志 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

文化財を未来につなぐ 博物館と学芸員の仕事 (仮)

——学芸員をめざす人へ (仮)

定価3,080円(予定)・本体2,800円(予定)・A5判・並製カバー装・288頁(予定)
2025年11月刊行・ISBN978-4-585-30022-9 C0000

この一冊を読めば奥深い学芸員の世界がわかる！

基礎知識や法制度から、企画・展示、作品の収集や保存修復、調査研究など多岐わたる博物館活動の現状と課題、具体的な仕事のノウハウまでを平易に解説。学芸員の実体験やエピソードのほか、地域の文化財を未来につなぐための学芸員の活動の事例を豊富に収録し、これからの博物館のあるべき姿や博物館やその活動を支える学芸員にとって最も大事なことを学べる入門書。学芸員志望の学生をはじめ、自治体職員として文化財保護や観光・地域振興政策の立案・推進に携わっている人、博物館のサポーターとして博物館を支えていこうとしている人に必備の一冊。

はじめに

第Ⅰ部 学芸員になる前に知っておきたいこと

- 1●博物館と文化財——(1)人の営みと文化財(2)博物館の定義とその目的(3)博物館法とその問題点(4)博物館の4つの機能
 - 2●博物館と調査・研究活動——(1)博物館資料と学芸員(2)博物館における調査・研究とは何か(3)博物館活動における「研究」の重要性
 - 3●博物館資料の収集／保存と劣化対策——(1)文化財の収集と保管(2)文化財の保存と劣化対策
 - 4●博物館展示の理念と実際——(1)博物館展示の特質と技法(2)博物館展示の実際(3)展示計画の設計と施工
 - 5●博物館における情報とその発信——(1)博物館における「情報」①——博物館資料についての情報(2)博物館における「情報」②——博物館そのものについての情報(3)博物館情報の発信と教育・普及機能の関係
 - 6●博物館における組織と人——(1)組織としての博物館(2)博物館の館長と職員(3)博物館における学芸員の役割とその未来
- 終章●文化財の保護と博物館・学芸員の役割
- 学芸員をめざすために読んでおきたい参考文献

第Ⅱ部 学芸員の実践

- 1●狭き門に挑む——資格の取得と就職 宮瀧交二
- 2●学芸員の醍醐味——展覧会の企画と開催 西島太郎
- 3●地域にある博物館・歴史資料館の可能性——福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」を事例に 松本尚之
- 4●地域の仏像を盗まれた！——その時、学芸員に何ができるか 大河内智之
- 5●博物館で地域調査をどう進めるか——博物館と地域貢献 前田徹・坂江渉
- 6●地域の創生と博物館 西川広平
- 7●新人学芸員の日・一週間・一ヶ月——付 先輩学芸員からのコメント 渡邊浩貴

高木徳郎〈編著〉

〔たかぎ・とくろう〕和歌山県立博物館学芸員を経て、早稲田教育・総合科学学術院 教育学部教授。専門は日本中世史。主な著書に『日本中世地域環境史の研究』（校倉書房、2008年）、『歴史の旅 熊野古道を歩く』（吉川弘文館、2014年）、共編著に『荘園研究の論点と展望——中世史を学ぶ人のために』（吉川弘文館、2022年）などがある。

書名	冊数
文化財を未来につなぐ 博物館と学芸員の仕事 ——学芸員をめざす人へ 高木徳郎〈編著〉	定価3,080円(予定)・本体2,800円(予定) A5判・並製カバー装・288頁(予定) 2025年11月刊行 ISBN978-4-585-30022-9 C0000
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025